

GREEN RADAR

全農長野県本部情報 / グリーンレーダー



平成26年度長野県青果物・花き取引会議

A-Front

長野県産ブランドの販売強化と生産者の所得向上、卸売会社との連携強化を。
～「平成26年度長野県青果物・花き取引会議」を開催～

A-Reports

- ・花き生産地と実需者のよりよい関係構築を目指して
～「平成26年度信州フラワートレードフェア」開催～
- ・営農指導者体制強化に向けて注力
～JA長野県営農指導者会議「通常総会」を開催～
- ・「信州肉牛」の品質・生産性の向上を目指す事業計画を決定！
～JA長野県・信州肉牛生産販売協議会「第11回定期総会」開催される～

事業レポート（生産販売部）

消費・小売・流通の変化を的確に把握。
生産者との情報共有を通じ迅速な対応を。

7

Vol.422
JULY 2014



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

長野県産ブランドの販売強化と生産者の所得向上、卸売会社との連携強化を。

～「平成26年度長野県青果物・花き取引会議」を開催～



全農長野県本部は、青果物・花きの出荷最盛期を控え、長野県産ブランドの販売強化と生産者の所得向上、卸売会社との連携強化を目的に、「平成26年度長野県青果物・花き取引会議」を6月2日(月)に長野市内で開催しました。長野県からは和田恭良副知事、中村倫一農政部長、青果・花き主要卸売会社23社の代表者、県下各JA組合長、全農長野県本部の関係者ら合計77名が出席しました。

会議の冒頭、全農長野県本部運営委員会芳坂副会長は「2月の豪雪被害では関係機関の結集による対策・対応により、その後の生産生育に大きな支障が発生していない。取引市場には販売面での格段の協力を願いたい。消費税増税・原油高によるコスト上昇・TTP問題等さまざまな課題があるが、農産物の価格形成と販売先への理解醸成をお願いする。こうした中、安全・安心・新鮮な信州ブランドの確立を基本に、多様な担い手に対応した生産振興総合支援対策をはじめ、生産販売・購買と連携した事業推進を進める。また、機能ある卸売会社とのパートナーシップをより強め、実需者への営業強化を進めるので協力を願いたい」と述べ

べました。和田副知事からは「長野県の持っている農業の強みを生かす方策を進める。経営者の育成、マーケットインの生産活動への転換、園芸作物中心のブランド化等を進めるなかで、競争力の強化を進めたい。また、信州の魅力を体感できる情報発信拠点を8月30日(土)に東京銀座にオープンする予定であり、人・こと・モノをトータルに発信していきたい」とあいさつがありました。

市場を代表して大果大阪青果(株)植田代表取締役社長が、「2月の豪雪被害は心配していたが、回復基調にあると聞き安心した。消費税増税の影響は思いのほか現れていない。TTPに関しても日本の野菜・果実は品質、安全・安心とも世界一と自負している。産地として安心・安全・食味のよさ・鮮度の良いものを供給していくことが重要であり前面に打ち出す必要がある」と述べました。

全農長野県本部は、26年度の果実・野菜・きのこ・花きの取扱高を計1,518億9千万円(前年比99%)にする計画を提示し、基本方針からなる4重点方針(生産基盤・商品力強化、集荷力強化、営業力強化、卸売市場との連携強化)について説明、合わ

せて現状の青果物・花きの長野県の現状について分析説明を行いました。各社からは「消費増税による影響については、末端店舗での価格表示が様々で、消費者に分かりづらい。商談価格の決定については大きな変化がない。今後更に増税になると商品価値に対する見方が厳しくなると予想するため、商品力強化、固定客確保、コスト意識を持った対応等が求められる」「量販店の統合再編が進んでおり、流通業界として前向きな決断と評価している。消費者から支持される商品づくりが求められており、市場と実需者が共に産地に入り、商品づくり・価格決定を進めていく。業務用・業務加工業界は、つくる(調理する)から、できた(調理した)ものを買う」というニーズが拡大。量販店の惣売り場は拡大傾向で、カット野菜等の工場も拡大されている。減少傾向の消費の中でマーケットを取っていくことが重要な戦略であり、業務対応の生産検討は他県を一步リードした戦略となる」など、多くの意見・提言をいただきました。なお、会議に先立ち本年度の取り引きが盛大に行われるよう、善光寺大本願にて商売繁盛を祈願しました。

花き生産地と実需者のよりよい

関係構築を目指して

～平成26年度信州フラワートレードフェア開催～

全農長野県本部野菜花き課は、長野県内花き生産地と消費地の実需者をつなぐ商談会として「平成26年度信州フラワートレードフェア」を、東京・大阪の2会場で開催しました。

5月14日(水)に行われた東京会場(東京都中央卸売市場大田市場)では県内9JAと生花卸売会社8社・実需者18社が参加しました。

また、5月28日(水)に行われた大阪会場(大阪市中央卸売市場)では県内8JAと生花卸売会社6社・実需者12社が参加しました。

商談会では、商談した内容により具体的な取引につなげるため、事前に産地から売り込みたい品目や時期、ターゲットとして実需者について要望を集約して商談を進めました。一方、

実需者側からも求める品目や時期、産地に今後生産を期待する品目など商談に期待する部分を事前に集約し、よりよい結果を残せるような組み合わせをした上で実施しました。

例年より商談時間を拡大したことや事前の情報交換の成果もあり、商談会に参加したJAからは、「より細かい内容まで充実した商談が出来た」「卸売会社とも普段の取引におけるメンテナンスも出来た」とのコメントを頂戴しました。今後は、取引開始に至る個々の取引条件の詰めが必要となります。

野菜花き課では引き続き、花き生産地と実需者のよりよい関係を構築する取組みを進めていきます。

(野菜花き課)



大阪会場



東京会場

田植え体験を長野県産米を

～東都生協「田植えツアー」今年も開催～

全農長野県本部米穀課は、5月24日(土)にJA佐久浅間(小諸市)の交流田で、東都生協の「田植えツアー」を開催しました。今年は総勢65名と昨年の1・5倍の参加者を迎え、晴天の汗ばむ陽気の中で田植えが行われました。とても熱心な参加者が多く、作業は1時間ほどで終了しました。昼食は東洋ライス(株)の金芽米おにぎりと、本県産きのこを使用したきのこ汁を振舞いました。きのこ汁はおかわりもあり、大勢の方が2杯目も味わっていました。参加者の中には3年連続で参加している方もいて、「田植えや稲刈りは本当に貴重な体験」「東京では体験できないことなので、子どもたちにも良い思い出になる」「今後も続けていきたい」との声を数多くいただきました。このような体験を通して産地を身近に感じていただき、「長野県産」が選ばれるきっかけになればよいと思います。



田植えをする参加者



昼食は金芽米おにぎりときのこ汁

*金芽米・・・東洋ライスによって開発された特殊な精米方法により、玄米の「健康成分」と「旨み」をしっかりと残して精米された無洗米。

営農指導者体制強化に向けて注力

「JA長野県営農指導者会議」通常総会」を開催」

JA長野県営農指導者会議

れました。

（事務局／JA長野県営農センター）は、6月4日（水）にJA長野県ビルで通常総会を開催しました。総会では25年度事業報告と収支決算、26年度事業計画と収支予算、26年度役員が改選され、承認されました。会議の冒頭であいさつに立った澤柳実也会長（JAみなみ信州）は、「地域農業の担い手育成支援、生産基盤維持・増進対応と、農家経営安定に向けた取組みを県下JAの営農指導員は行つべき」と述べました。

また、特別決議として「JAグループの組織に対する攻撃をはねのけ、自らの意思に基づく改革の実践に関する特別決議」が提案され、満場一致で可決さ

総会終了後、JA全中経営策部経営課 富永健一氏より、新農政の実践について講演があり、営農経済革新プランや営農技術員としての関わり方を学習しました。

●26年度の役員

会 長	下村治平氏（JA塩尻市）
副会長	小松俊明氏（JA信州うえだ）
〃	白鳥健一氏（JA上伊那）
〃	成沢秀憲氏（JA志賀高原）



新旧役員のみなさん



「新農政の実践にむけて」講演をするJA全中 富永氏



一年間の締め括りのあいさつをする澤柳会長

JAと組合員を結ぶ情報システムを強化

「アグリネット7月1日にリニューアル」

JA長野県農業情報ネットワーク「アグリネット」は、7月1日（水）にリニューアルします。これに向け、6月5日（木）6日（金）に計4回、JA担当者を対象に操作研修会を行いました。

アグリネットは、JANISインターネット接続サービスを利用し、長野県内の会員に農薬・施肥・病虫害のデータをはじめとする営農技術情報の提供と経営戦略にかかわる支援サービスを行っています。農業・農村を取り巻く情勢が変化

することから、アグリネットの位置づけについて再度整理した上で、リニューアルを検討してきました。2018JA長野県ビジョン実現のための前期中期計画樹立方針に定めた「担い手のニーズに対応する営農指導体制の強化」の中で「JAと組合員を結ぶ情報システム」があり、今回のリニューアルはそのためのものです。JAからの情報発信を強化し、次世代の中核的担い手をターゲットに双方向の情報共有を目指します。

リニューアル後のアグリネットの活用を推進するため、JA内での体制整備をサポートし、7月1日のリニューアルをすすめていきます。



研修を受けるJA担当者

「信州肉牛」の品質・生産性の向上を目指す事業計画を決定！

「JA長野県信州肉牛生産販売協議会」第11回定期総会開催される」

5月29日（木）松本市JA中信会館において、県内肉用牛肥育・繁殖生産者とJA・行政等関係団体及び県内外取引先から総勢63名の出席の中、JA長野県・信州肉牛生産販売協議会「第11回定期総会」が開催されました。平成26年度の畜産事業状況は、「飼料価格の高止まり」「昨年より続く素牛相場の高騰」「TPPにおける牛肉関税の動向」と厳しい情勢が予測されます。総会では、JA長野県・信州肉牛生産販売協議会及び関係団体が「一丸となり、この難局を乗り越えるため、生産基盤維持拡大に向け受精卵を活用した子牛生産等」に取組み、一昨年より関西市場にも上場を始めた「信州プレミアム牛肉」の認知度向上への取組み、TPP交渉をめぐる農政活動等、「信州肉牛」の品質・生産性の向上を目指す事業計画を決定しました。

今後とも協議会は安全・安心な生産はもとより、生産性の向上を目指し、「信州プレミアム牛肉」の一層の定着に向けた取組みと、信州和牛及び信州アルプス牛の販売促進活動を展開していきます。



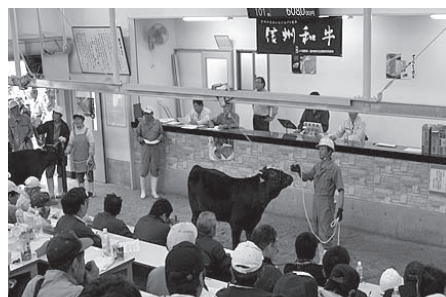
挨拶をする山崎協議会長

子牛相場は堅調に推移

「6月長野県中央家畜市場開場される」

6月11日（水）、木曽町の長野県中央家畜市場において全農長野県本部が開設する6月期長野県中央家畜市場が開場されました。和牛子牛303頭、和牛成牛16頭、乳牛成牛2頭、合計321頭が上場され、県内外から100余名の購買者が訪れる中、活発なセリ取引が行われました。素牛不足による子牛相場の高騰は昨年から続いており、今回の市場相場も堅調に推移しました。和牛子牛価格の平均は、雌527千円、去勢585千円、全体平均557千円と、前回4月期より若干下げたものの、前々回との比較ではまだまだ高いレベルにあります。

長野県中央家畜市場の和牛子牛上場頭数は年々減少傾向にあり、信州和牛の素牛供給基地としての役割が危惧される状況にあります。畜産課としても、平成26年度は、優良受精卵確保事業に取り組みとともに、優良繁



セリ風景



上場子牛と、安全対策としてヘルメットの装着をしながらセリを待つ生産者

主要花き市場において 信州の花を一斉展示

〈企画第二弾 信州のシャクヤク〉

全農長野県本部野菜花き課は、シャクヤクの出荷最盛期に向け、主要市場等で信州産シャクヤクの一斉展示を行いました。これは、今年度より初めての取り組みとして、信州の花の品種や産地をより多くの方に紹介し、購入の動機づけにすることを目的に、東京・名古屋・大阪の主要花き市場において、一斉に展示する企画の第一弾です。

長野県内のシャクヤクは、4月、加温ハウスの作型からスタートして無加温ハウス、露地作型と、作型、産地をリレー

しながら順次出荷になります。5月下旬に迎える出荷最盛期に先立ち、5月12日(月)から「信州のシャクヤク」ということで市場展示を開始しました。同時に、JA長野県ビル1階ロビーにも展示を行いました。

シャクヤクは、ピンク、白、赤を中心に県内でも30品種以上が栽培されており、母の日のギフトや婚礼にも根強い人気があります。この時期にしかない季節感を感じさせてくれるのも魅力の一つです。



市場での展示



JA長野県ビルでの展示

全国への切符を懸けて熱戦を展開！

〈全農杯 全日本卓球選手権大会 長野県予選会〉

全農長野県本部は、「全農杯 全日本卓球選手権大会 長野県予選会(ホープス・カブ・バンビの部)」に協賛し、1位〜4位の選手に副賞を提供しました。全農は所属選手として石川佳純選手を擁し、ワールドデンウィークに開催された世界卓球団体選手権の冠スポンサーを務めるなど卓球競技全体を支援しています。小学生以下の全日本選手権にあたるこの大会にも特別協賛するとともに、各県大会に各県本部が副賞を提供し、国産農畜産物と加工品の消費拡大に向けたPR活動を展開しました。

長野県予選会は5月25日(日)に東御市で開催され、長野県卓球連盟に登録している小学生118名が参加し、日頃の練習の成果を競いました。副賞として1位と2位に長野米、3位にりんごジュースを提供したところ、応援する保護者の皆さんの力も入り、会場は熱気に包まれました。



事業レポート

今月号から、平成26年度事業計画達成に向けた各部の取り組み状況や考え方について紹介していきます

生産販売部

消費・小売・流通の変化を的確に把握。 生産者との情報共有を通じ迅速な対応を。

生産販売部は、生産面ではマーケットインに基づき産地に品目提案を行い、生産基盤の維持強化を図っています。また販売面では卸売市場流通を主力としつつも、多様な販売チャネルを通じて実需者への営業強化を行い、販売先確保と価格形成力強化に努めています。

〇米穀課

JA・県本部が一体となった米穀集荷向上・販売対策を行っており、需要に応じた集荷数量を確保するため、長野米集荷対策を実施しています。

販売面ではJAと一体となった営業推進を行い、(株)マイパール長野を含めた県内外重点卸と連携した実需者との結び付け強化により安定的取引の拡大を図っています。また、生協・一般米穀店向けに付加価値のあるこだわり米の推進を通じて消費者ニーズへの対応を行っています。

生産面では農産物検査室による品質調査、関係機関との連携による品



実需者を招いて田植えツアーを開催

質向上対策・有望品種試験・多収栽培試験等を行い、安全・安心な米穀供給体制強化を図っています。



検査室

今後も売れる長野米・県産穀類の生産を振興し、実需者と産地JAの結び付きを強化し、県域共同計算を通じて生産者手取りの最大化の取組を続けていきます。

〇果実課

長野県オリジナル品種(りんご三兄弟、南水、ナガノパール、なつっこ等)の生産振興強化とともに、農家経営の視点から「りんご高密植栽培」など高収益の確保ができる栽培方法を推進するための苗木生産に取り組んでいます。

営業面では、従来の量販店・生協等の売り場確保だけでなく、新たにコンビニエンスストア販売や業務加工需要に向けた営業強化を行ない、種無しブドウシリーズの生産拡大や、丸かじりリンゴの生産導入などを図ります。

一方でくだもの長期貯蔵技術が発達しており、従来では短期勝負を賭けざるを得なかった品種についても、長期貯蔵を行って出荷ピークを崩すことで価格の安定化を目指します。

また国内果実価格の安定の一方案



子どもから大人まで、大人気の「信州力」



果樹園での研修会の様子



全農長野県本部の苗木生産圃場(朝日村)

として、東南アジアをターゲットとした輸出対策にも取り組んでいきます。



ギフト用商品の包装を新しく、実需者にあった魅力ある商品を提案しています



首都圏で開催された商談会にて



鉄コンテナ(バルク)を使った業務用キャベツの収穫出荷



和歌山県の地元密着型の量販店を対象に、長野県の農産物をPR

機能性研究の成果をもとにして、日常生活の中に「菌食」を積極的に提案することで需要の創出につなげていきます。

○営業課

実需者営業の強化に努め、顧客確保に繋がる積極的な営業活動を展開します。量販店対応では地域密着型の量販店や食品スーパーとの関係強化により、一層の信頼関係の構築を目指していきます。また、コンビニ関係との取引を拡大し、カット野菜・カットフルーツの供給ルート作りに取り組んでいます。

一方では、野菜需要の過半を占める加工業務用顧客との取引を拡大し、

取引の取捨選択により重点顧客との関係強化を図ります。さらに産地に向けては無いものは作ってもらうよう「マーケット・イン」に基づいた活動を品目各課、事業所と一体的に進めます。また、果実の業務需要について、流通実態を把握しながら新規提案によって取引ルートの開発に取り組みます。

近頃では、きのこや果実では単品の商品案内から、複数品目の袋詰めやセット販売に変わってきています。当課でもターゲットを明確にした商品提案と付加価値・価値観の創出によって、時代に即した中間流通者として産地と実需者双方から選択される存在を目指していきます。

○野菜花き課

野菜主力品目の安定供給に努め、長期売り場確保を進めます。品目別ではハクサイの適正生産、レタスの生産力維持、非結球レタスの適正生産、セルリーの県内及び県外産地のリレー出荷を重点に取り組みます。また需要が高まっている品目として、キャベツの生産拡大、アスパラの新

植事業による生産力強化、ジュース用トマトの拡大に努めます。花きについては、7月の集中出荷回避のための秋期出荷量確保に努めます。品目別にはトルコギキョウやアルストロメリアの規格統一と県域での販売体制の構築、量販店向けコギクの拡大を引き続き進めていきます。

野菜の日(野菜ソムリエコミュニティがのの主催でイベントを実施)

花の生産者が技術力を競う品評会を実施

○きのこ課

「品質」・「鮮度」・「食味」の揃った高品質なきのこの安定生産と、需給バランスにあった生産誘導を進めるとともに、消費動向に即した季節感のあるメニューによる企画販売提案、集中的に店頭試食宣伝会を実施することで重点実需者への営業力強化に取り組めます。

増加する加工業務需要に対しては、カットきのこの提案による新たな販路開拓と販売量の拡大に努めます。ブランド力アップを目標にした消費宣伝事業は、「信州力」がデザインされた統一パッケージの使用により若年層や主婦層をターゲットに認知度向上を図り、他業種とのタイアップ宣伝やキャンペーンの展開により購買層の拡大と新たな消費の掘り起こしを進めます。

さらに、健康・

「信州力」でパッケージを統一し、販売

担当部長からひとこと

小売業界は大きく変化しており、コンビニエンスストアの取扱いは2013年9兆4千億円となり、スーパー業界の12兆5千億円に近づいています。一方、スーパーは合併や事業統合により再編が進んでおり優勝劣敗が明確になってきています。消費・小売・流通の変化を的確に把握すると共に、迅速かつ的確な対応が必要となります。対応を進める上で生産者を含め情報を共有することが重要です。全農長野県本部としても情報収集と発信に努めて行きたいと考えています。

生産販売部長 沖村俊彦

7月の動き▶

総務 広報課	●協同組合シンポジウム 7月4日(金) アクティーホール ●松本山雅FCホームゲームイベント(スイカ) 7月26日(土) アルウィン(松本市) ●地産地消カレーイベント 7月29日(火) 栄村
生産 販売部	●(株) オークワトップセールス 7月3日(木)～4日(金) 和歌山県
農業 機械課	●2014JA農機&資材フェスタ 7月18日(金)・19日(土) エムウェーブ(長野市)
畜産課	●第56回信州肉牛松本即売会 7月5日(土) 長野県食肉公社松本支社 ●第36回信州和牛(長野県産)枝肉共励会 7月29日(火) 大阪市食肉市場(株)
燃料・ホーム エネルギー課	●LPガス保安・推進強化研修会議 7月16日(木) 千曲市
SS協同 経営課	●スマイルサマーキャンペーン 7月1日(火)～31日(木) 協同経営SS 45カ所
A・コープ 事業部	●エーコープマーク品まつり 7月4日(金)～6日(日) A・コープ各店舗 ●信州がおいしいフェア 7月18日(金)～20日(日) A・コープ各店舗 ●土用丑の日セール 本日友の会ポイント2倍デー 7月29日(火) A・コープ各店舗

JA全農長野の事業現況
平成26年度5月末部門別実績表

区分		(単位:百万円,%)		
部門		実績	計画比	前年比
米	穀	2,306	70	103
果	実	180	78	69
野菜	花き	2,978	88	87
野菜種苗	センター	71	102	108
きのこ		2,314	92	100
営	業	849	68	90
生産販売部計		8,697	81	94
包装資材		723	64	58
生産資材		2,534	104	67
農業機械		1,132	89	78
施設住宅		399	145	68
生産購買部計		4,789	94	68
畜産		1,976	108	101
三岳平谷牧場		36	130	98
SPF繁殖センター		47	98	96
酪農		2,644	109	105
八ヶ岳牧場		45	95	115
畜産酪農部計		4,748	108	103
燃料・ホームエネルギー		4,791	100	93
SS協同経営		1,937	100	95
生活	活	2,298	97	91
生活部計		9,026	99	93
A・コープ事業部計		5,115	102	106
長野県本部計		32,375	94	91

新採用職員紹介

【果実課 久保田浩貴】
はじめまして、果実課の久保田と申します。
出身は北信にある小布施という小さな町で、両親が農家という事もあり、幼い頃から美味しいくだものに囲まれて育ちました。そんな農業を支える仕事がしたい、という思いで入会してから早くも三ヶ月が経ちますが、未だに先輩方に教えて頂かないとわからない事が沢山あります。早く長野県の農業に貢献できるような一人前の職員を目指して頑張りたいと思います。宜しくお願いします。



お中元は信州産をご利用ください

【営業課 安藤寛】
営業課の安藤と申します。もともとは新潟の生まれですが、長野の魅力に吸い寄せられ、こちらでお世話になることとなりました。仕事のことはもちろん、文化や言葉の違いも勉強中の毎日です。これから仕事を通じて人さまのお役に立てるようがんばっていきます。少し年のいった新人ですがよろしくお願いいたします。



笑顔で業務に取り組んでいます

A-Board

信州★チカラ®は健康のチカラ!
キャンペーン実施中

全農長野県本部きのこ課は、信州産きのこを食べて健康づくりに役立ててもらおうと「信州★チカラ®は健康のチカラ! キャンペーン」を7月31日(木)まで実施しています。

店頭の応募ハガキ、一般ハガキ、応募WEBサイトでクイズの答えと必要事項を記入して応募していただくと、抽選でギフトカード、オリジナル保冷トートバッグ、信州きのこセットが当たります。

WEBサイトでは100種類のきのこ料理レシピを掲載していますので、毎日の食卓を信州産きのこ料理で1品増やしてはいかがでしょうか。



信州きのこの情報やキャンペーンの応募はコチラ 信州カドットcom 検索



この号が出るころにはサッカーのワールドカップはもうなっているのでしょうか。我が家では早起きするため、深酒を避けて早寝が始まりました。

編集後記

畜産酪農部も広報活動に積極的な部署で、色々なネタの提供があります。六月は「牛乳月間」で、JA信州諏訪での「牛乳パックアート」や「牛乳セミナー」などがありました。全てを紹介出来なくて残念且つ、チョット申し訳ない気持ちです。

6月14日にあった牛乳セミナーで、信大の能勢先生の講演に運動と熱中症と牛乳の関係のお話がありました。そういえば、某プロサッカークラブ関係者からも、「選手に、もっと牛乳を飲ませたいんですよ。」なんて話を聞いたこともあります。これからの暑い時期、ビールよりも牛乳!...なのは分かっているのですが...

元気です! 信州農業



JA農機&資材フェスタ

7月18日(金)・19日(土)

AM9:00~PM4:00

AM9:00~PM4:00

■開催場所 **エムウェーブ**
(長野市オリンピック記念アリーナ)

**トラクター・田植機・
農機具類から
肥料・農薬・農業関連資材まで
使って便利な品々が
「Mウェーブ」に大集結!!**

どなたでも
入場無料

花の苗や
カーテニング用品等も
たくさん取り揃えて
お待ちしております!!

■主催
長野県農協生産資材事業推進協議会

■後援
長野県、長野県くみあい農業機械サービス連絡協議会
JA全農長野

~あなたの帰りを待っている人がいます~
ストップ・ザ・農作業事故 農作業安全はJAの願いです。

会場ご案内図



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA全農長野ホームページ <http://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JAタウン」 <http://www.ja-town.com>

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋** になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

